

和歌山だよい

平成24年12月号



ゆかし潟 (那智勝浦町)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P10
3. ふるさと歳時記……………P11



今年も、ご愛読いただき、ありがとうございました。

「 総評論家時代 」

和歌山には魅力的な所がいっぱいあります。世界で二つしかない道の世界遺産、高野・熊野があるし、ほれほれするような海岸美やうっとりするような溪谷美や、緑の山々や、よりどりみどりの温泉や日本有数の文化財やパンダやタマちゃんまで。様々な果物が年中採れ、色々な美味しい魚がどっさり、人情はほのぼの、他国の人でも温かく迎え、産業も結構いい線で、偉人もいっぱい出ている、といった調子です。しかし、どうも全国的にこれが認知されていない点があります。

そこで、多くの人が「もっと売り出さなきゃ」とおっしゃるのでその通りであります、私も県庁の諸君も秘術を尽くして必死でそのための具体的な努力をしております、例えば、最近、TVや旅行誌のような専門誌に和歌山特集が結構出るようになりました。しかし、まだまだ満足するところには行っていません。どうしたら、もっと売り出せるか、それを皆で日夜考えて、さらに少しでも可能性がある所があれば果敢に実行する必要があると思っています。

しかし、「もっと売り出さなきゃ」とおっしゃる方の中にそう言うだけでおしまいという人が結構おられるのです。和歌山県には100万人の人が住んでいて、知名度も高く、県外のお知り合いもたくさんいらっしゃる方もいます。そういう方が和歌山のいい所を勉強していただいて（注）、「どうだい！」とお知り合いに自慢して下されば、個々の力は弱くとも、どんどんと大きな力になるのではないのでしょうか。

一般に、「これはこうしなくては」と人に言うだけで終わっていたら、あんまり世を動かす力になりません。我々はそのような例をTVの解説者とか評論家とか呼ばれる人達のものの言い方の中に典型的に発見することができます。皆がこういう人達のことを真似たら、一億総評論家の世になってしまいます。具体的に工夫して実行してみる、皆が実践の人になれば、必ず世はよくなると信じます。

（注）和歌山についての知識を何でも簡単に知ることができる教材を作りました。

「わかやま何でも帳」（和歌山放送発行）です。



11/18 道成寺にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「星空の街・あおぞらの街全国大会」が開催されました。

・第24回「星空の街・あおぞらの街」全国大会が高円宮妃殿下のご臨席の下、11月17日～18日、日高川町の日高川交流センターにおいて、開催されました。

・この大会は、郷土の環境を活かした地域おこしの推進と大気環境等の保全意識の高揚を図ることを目的に平成元年度から開催されているもので、和歌山県においては、初めてとなります。

・大会には県内外から約500人が出席。仁坂知事は「大会を機に一人ひとりが環境保全を考えるきっかけとなり、愛している青空や星空がいつまでも続くように願っています」と挨拶しました。

・高円宮妃殿下は、紀伊半島大水害に触れ、「皆様が一日も早く心安らかな日常を取り戻されることを願っています」と被災者を気遣われながら、参加者に向けては「環境について、一人ひとりが考え、実行していくことが大切であると思います」とお言葉を述べられました。

・式典では大気環境保全への啓発普及や観察活動などに取り組んできた個人や団体に対する表彰も行われました。

・和歌山県からは、みさと天文台を中心に様々な地域でスターウォッチングを開催し、地域おこしに積極的に取り組んでいる「みさと天文台友の会」が環境大臣賞に、星空に親しみながら環境問題について考え、市民の交流を図ることを目指した団体を設立し、小学校等でスターウォッチングを開催している有田市立糸我小学校の^{はせのきよし}榎木芳高校長が「星空の街・あおぞらの街」全国協議会会長賞（すばる賞）を受賞しました。

・式典に引き続いて、地元の小中学生による^{ゆりもどひさよし}星空観察報告会や日高川町出身で、宇宙探査機「はやぶさ」のプロジェクトに参加している^{はせのきよし}坂本尚義北海道大学教授による「『はやぶさ』が持ち帰った宇宙のおみやげ」と題した記念講演会が行われたほか、夜にはかわべ天文公園で星空観望会が開催され、高円宮妃殿下もご出席されました。

・また、高円宮妃殿下は、地方事情もご視察されました。

・17日には、昨年の台風12号で甚大な被害を受けた日高川漁協をご訪問され、仁坂知事から、県内の被災状況や復旧・復興への取組について説明を受けられた後、施設内をご視察されました。

・翌18日には、田辺市の南方熊楠顕彰館や日高川町の道成寺もご視察され、帰路につかれました。



●高野・熊野夢舞台コンサートで相川七瀬さんが熱唱！！

・11月4日、田辺市本宮町の熊野本宮大社の旧社地大斎原で、「高野・熊野夢舞台コンサート ～蘇る煌く聖地熊野からのメッセージ～」が開催されました。



・「高野・熊野夢舞台コンサート」は、和歌山県観光立県推進条例に基づく「観光週間」の取組みの一環として、平成22年度から開催されており、世界遺産「高野・熊野」地域がもつ幽玄・雄大な景観を舞台に野外コンサートを開催するだけでなく、コンサートの内容を含めて同地域の魅力を全国に情報発信することで、誘客を図ろうとするものです。

・3回目となる今年は、歌手の相川七瀬さんが登場。大阪出身で最近では神道や日本文化に興味をもち、熊野も度々訪れているという相川さんは、アコースティックバージョンで「夢見る少女じゃいられない」などヒット曲を次々と披露。

・コンサート終了後、相川さんからは「熊野は、私にとってふるさとのような温かさを持った場所であり、疲れた心を充電させてくれる大切な場所です。熊野から今までもらったパワーの恩返しに、これからも精一杯力を尽くせたらと思います」とメッセージが寄せられました。

・このコンサートの模様は全国6つのテレビ局で放映されます。皆さんもぜひご覧下さい

東北放送	12月31日月曜	午前6:20～6:50
東京MX-TV	12月23日日曜	午後2:30～3:00
三重テレビ放送	12月24日月曜祝日	午前8:30～9:00
サンテレビジョン	12月23日日曜	午後5:00～5:30
テレビ西日本	1月5日土曜	午前9:55～10:25
テレビ和歌山(制作)	12月8日土曜	午後9:00～9:30

●国際シンポジウムin高野山が開催されました。

・今年、世界遺産条約がユネスコで採択されて40周年、日本が締約国となって20年という節目の年にあたります。

・この記念の年に、改めて世界遺産の保全のあり方や次世代への継承について考えてもらおうと、「国際シンポジウムin高野山」が11月11日、高野町の高野山大学 松下講堂 黎明館において、開催されました。



・シンポジウムの冒頭、仁坂知事は「和歌山県には、われわれが誇る世界遺産があり、この高野山でシンポジウムが行われるということは喜ばしいこと」と挨拶しました。

・基調講演ではイコモス副会長であるアルフレッド・コンティ氏が南米の事例を取り上げながら、世界遺産を保全するための地域社会の役割について語りました。

・続く特別講演では、高野山真言宗の教学部長で、高野山大学名誉教授である村上保壽氏により、「高野山と日本の精神文化」と題して、神道と仏教が融合した日本独自の精神文化が紹介されました。

・最後に、東京大学副学長で日本イコモス国内委員会委員長である西村幸夫氏をコーディネーターに仁坂知事も加わりパネルディスカッションが催され、世界遺産を次の世代へと伝えることの重要性やその方策について活発に意見が交わされました。

・会場には、高校生や大学生も訪れ、世界遺産に関わってきた有識者の話を熱心に聞き入っていました。

●紀伊半島大水害復興御礼 そろそろ和歌山に行ってみようキャンペーン開催中！

- ・11月21日から12月11日まで、首都圏で「そろそろ和歌山に行ってみようキャンペーン」を実施しています。
- ・このキャンペーンは、昨年と今年の1月に続く、第3弾となるもので、今回は、紀伊半島・11月21日には、キャンペーンのオープニングイベントとして、渋谷ヒカリエにおいて、首都圏のマスコミ、旅行エージェンツ、物産バイヤー等関係者を対象にしたレセプションを開催し、260名の参加をいただきました。
- ・レセプションには、和歌山県の応援のために、ふるさと大使の坂本冬美さんやわかやまパンダ大使の岡本玲さん、ロンドンオリンピック・パラリンピックで活躍した体操の田中和仁選手、レスリングの湯元進一選手、競泳の中村智太郎選手、陸上の九鬼巧選手、カヌーの阪本直也選手、フェンシングの西岡詩穂選手、さらには、全日本男子バレーボールの植田辰哉監督、元西武ライオンズ投手で関西独立リーグの木村竹志代表、コラボユニット西山宝子の西山隆行さんと宝子さん、そして、テーマソングを歌うウインズ平阪さんと、芸能界やスポーツ界で活躍する本県に縁のある方々が和歌山サポーターズとして集結。皆さんから、応援メッセージとして、和歌山の魅力をご披露いただきました。
- ・仁坂知事は、世界で二つしかない道の世界遺産・熊野古道や9頭のパンダファミリーなど様々な面から和歌山の魅力を紹介。「昨年の大水害では、大変な被害が出ましたが、多くの方々のおかげで、復興も順調に進んでいます。元気になった和歌山に是非お越し下さい。」と挨拶しました。
- ・会場では、パンダ模様の衣装を身につけたパンダガールズも登場し、マグロの解体ショーや県内各地の特産品等の紹介コーナーも設けられ、参加者は和歌山の味に舌鼓を打っていました。
- ・第二部では、県内各地域からのプレゼンテーションが行われ、各市町の首長をはじめ観光関係者が地元の魅力を熱心にアピールしました。
- ・このキャンペーン期間中、広告トラックの運行や銀座でのビジョン広告を展開中です。
- ・首都圏各旅行会社協賛のもと、電飾看板を配置した広告トラック3台が、銀座・有楽町、丸の内・渋谷、新宿・池袋などで毎日運行中です。
- ・このトラックの運行に併せて、銀座4丁目交差点のホットビジョンでもキャンペーンCMを放映しているほか、都営地下鉄全線全車両での中吊り広告も実施しました。
- ・都内及び各地で、PRイベントや協賛イベントが実施されています。
- ・キャンペーンの特設サイトがわかやま喜集館のホームページ内に設けられていますので、詳しくはそちらをご覧ください。



http://www.kishukan.com/sorosoro_wakayama2012/index.html



●「ココ・カラ。和歌山キャンペーン」を開催しました！！

・11月23日～25日、和歌山県とJAグループによる和歌山県産農産物消費宣伝キャンペーン「ココ・カラ。和歌山キャンペーン」が東京を舞台に開催されました。

・有楽町駅前地上広場では、「ココ・カラ。和歌山フェスティバル～有楽町で和みましょ♪～」と題したイベントが3日間にわたって、開催されました。

・広場には特設ステージが設けられ、物産や観光のPRはもちろんのこと、スペシャルゲストによるトークショーや和歌山出身アーティストによるライブなど、多彩な催しが繰り広げられました。

・23日には、日本みかん農協のみかんマイスターであるタレントの関根麻里さんが、ミカンの美味しさと魅力についてトークショーを行いました。

・24日にはタレントの大桃美代子さんと仁坂知事、JAグループ和歌山農産物消費拡大対策事業協議会の山下協議会長によるトークショーが行われました。大桃さんは女性や野菜ソムリエの立場から見た果物や野菜の効果的な食べ方について、仁坂知事は和歌山県の観光情報や県産農産物の魅力、安全安心について、JAグループの山下協議会長は産地の特徴やこだわりについて熱く語りました。仁坂知事は最後に「是非そろそろ和歌山へお越し頂くと共に、美味しい安全な和歌山県産品をお召し上がり下さい」と述べ、ステージを締めくくりました。

・また、会場内には最盛期を迎えたみかんや柿をはじめ、野菜、花、加工品などの特別販売ブースや観光PRブースも設けられ、終日、大勢の人で賑わいました。

・11月24日には丸の内のコンファレンススクエアプラスで、「ココ・カラ。和歌山機能性フォーラム～日本人のココロとカラダに果物を～」が開催されました。

・第1部では、愛知学院大学の太田俊彦教授が「期待される植物由来のファイトケミカルのチカラ～日本人が利用したい果物・野菜」と題した基調講演を行いました。

・太田教授は老化防止などに役立つと言われる抗酸化食品研究の第一人者で、果物や野菜が持つ力が私たちの生命機能に果たす役割について紹介し、その力を活用していくことを勧めました。

・第2部では日経ヘルスの藤井省吾編集長をコーディネーターに迎え、パネリストに太田教授、宇都宮洋才和歌山県立医科大学准教授、(株)ベジフルファインの小針衣里加代表取締役、そして仁坂知事も加わり、シンポジウムが行われました。

・パネリストは、それぞれの見地から果物が持つ多彩な機能性や果物が今後広がりを見せる可能性などについて意見を交わし、単に美味しいだけではない果物の魅力を熱く語りました。



●「津波防災の日 津波防災講演会」を開催しました。

・安政の南海地震が発生した11月5日は濱口梧陵の「稲むらの火」の故事として語り継がれ、昨年「津波対策の推進に関する法律」の制定とともに、「津波防災の日」として定められました。

・この「津波防災の日」の関連事業として、11月4日、和歌山ビッグホールにて「津波防災講演会」が開催されました。

・講演会の冒頭、仁坂知事は「我々が住んでいる紀伊半島は地震が必ず来る。備えをして、出来る限りのことをして、犠牲者をゼロに近づけるようにしていかなければならない。「稲むらの火」のように、津波に打ち勝つような努力をしていくことが、津波防災の日の意義である。本日の講演会のお話を聞いて、一層の対策をしていきたい。」と挨拶しました。

・続いて、「釜石の奇跡」の生みの親である群馬大学の片田敏孝教授が「想定外を生き抜く力～大津波から生き抜いた釜石市の子どもたち、その主体的行動に学ぶ～」と題して、講演を行いました。片田教授は、「釜石の奇跡」と呼ばれる、東日本大震災の際に、岩手県釜石市の小中学生のほとんどが津波から避難できたことを紹介し、津波災害から命を救うため、「自らの命を守ることに主体的たれ」との信念に基づく「避難3原則」（「想定にとらわれるな」、「最善を尽くせ」、「率先避難者たれ」）と、学校や家庭、地域が連携して、津波が来れば逃げるという意識を徹底し、文化として育てていくことが重要であると訴えました。



●広域医療搬送合同訓練を実施！！

・大規模災害発生時、被災地では、多数の負傷者が発生するほか、医療施設の機能低下により十分な医療体制が確保できないことが予想されます。このような状況で、重傷者の救命と被災地内の医療の負担軽減を図るためには、災害派遣医療チーム（DMAT）を受入れ、関係機関と連携のうえ、患者を域外の医療施設に広域搬送することが求められます。

・和歌山県では、昨年の東日本大震災や紀伊半島大水害の教訓を踏まえ、今回初めて、DMATと自衛隊衛生隊が連携した広域医療搬送訓練を実施しました。

・訓練は、和歌山沖を震源にした巨大地震が発生し、県内医療機関での重症患者受入が困難という想定で、11月23日～25日の3日間にわたって行われました。

・初日は、南紀白浜空港に広域医療搬送拠点（SCU）を開設する訓練を実施。2日目、3日目は自衛隊が加わり、被災地串本町で、DMATと自衛隊衛生隊が連携した患者トリアージ訓練から重症患者を自衛隊ヘリで白浜SCUに航空搬送する訓練、さらには、白浜SCUでDMAT、自衛隊衛生隊が患者を受入れ、診療の上、県域外に広域搬送する訓練が実施されました。

・和歌山県では、今後もより実践に即した訓練を行い、大規模災害に備えていきます。



DMAT：医師、看護師、業務調整員計5名で構成する災害派遣医療チーム

和歌山県では全ての災害拠点病院にDMATを設置。（10病院17チーム）

SCU：Staging Care Unitの略で、災害時、患者を広域搬送する場合の臨時医療施設。

和歌山県では南紀白浜空港に設置すると位置づけている。

●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会オフィシャルスポンサーに3社決定

・この度、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の企業協賛制度におけるオフィシャルスポンサーとして、株式会社オークワ、株式会社紀陽ホールディングス、株式会社島精機製作所の3社が決定しました。

・11月19日、知事室において、株式会社オークワへの感謝状贈呈式が行われました。

・贈呈式では、株式会社オークワ 神吉 康成代表取締役社長から、仁坂知事へ協賛金ボード（目録）が手渡されました。

・知事から神吉社長へ感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。



・11月28日、知事室において、株式会社紀陽ホールディングス及び株式会社島精機製作所への感謝状贈呈式が行われました。

・贈呈式では、株式会社紀陽ホールディングス 片山 博臣代表取締役様及び株式会社島精機製作所 島 正博代表取締役社長から、仁坂知事へ協賛金ボード（目録）が手渡されました。

・知事から片山代表取締役及び島代表取締役社長へ感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。



・3社からいただきました協賛金は、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の広報活動等に活用させていただきます。



企業協賛制度について

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の両大会の開催趣旨に賛同された企業・団体から協賛金や物品提供等のご支援をいただく制度

- 国体パートナー 1,000万円の協賛金
- オフィシャルスポンサー 500万円の協賛金
- オフィシャルサプライヤー 100万円相当額以上の物品提供等
- 大会協力企業 10万円相当額以上の物品提供等

●「地域ブランドサミット in ありだ2012」が開催されました。

・11月10日～11日、有田市において、「地域ブランドサミット in ありだ2012」が開催されました。

・このサミットは地域ブランドのイメージ向上を図るとともに、自治体や民間企業が連携することによる地域の活性化を目指すもので、全国の自治体で構成する地域ブランド連携協議会と有田市を中心とした運営委員会の共催で行われました。

・初日は、サミットに先立って、有田みかんを使ったクリスマススイーツの審査会が行われた後、人気パティシエの鎧塚俊彦さんの記念講演、また、鎧塚さんと妻で女優の川島なお美さん、望月良男有田市長によるパネルディスカッション、さらにはワインのマスターソムリエ高野豊さんの基調講演も行われ、県内外から集まった参加者は、熱心に聞き聞いていました。

・講演の合間には、有田みかん官能審査会が実施され、講演を行った食のプロたちがみかんの食味審査を行いました。認定を受けたみかんは、【有田QUALITY】マークの使用が許可され、販売されます。また、審査結果は有田市のホームページでも公表されています。（<http://www.city.arida.lg.jp/kikaku/ninnteimikannitirannH24.html>）

・翌日には、各自治体の取組についての事例発表や特設会場でのセレモニーもあり、大勢の人で賑わいました。



●マグロ養殖に関する国際シンポジウムが開催されました。

・11月23日、串本町において近畿大学主催による「グローバルCOEプログラム串本国際シンポジウム～マグロ養殖の革新技术と国際化～」が開催されました。

・近畿大学は串本町にある研究施設で、クロマグロの養殖研究を行っており、平成14年に人工ふ化から育てた親から産卵、ふ化させ飼育する完全養殖に成功。この研究は注目を集め、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援する文部科学省の「グローバルCOEプログラム」に採択されています。

・シンポジウムには、国内外の研究者をはじめ、漁業関係者や商社関係者など多数が参加。

・仁坂知事も来賓として出席し、「1970年からずっと研究を続けられているクロマグロの完全養殖という偉業の達成には感銘を受けました。今日のシンポジウムはマグロの資源問題の解決につながっていくことと思います。」と挨拶しました。

・アメリカやオーストラリアなど海外の研究者からは、マグロ養殖の現状や技術開発に関する研究発表が行われました。

・クロマグロの資源枯渇が国際的な問題となる中で、参加者は最新の研究動向に熱心に耳を傾けていました。

・また、このシンポジウムの翌日には、和歌山県と串本町の主催による「和歌山県・串本町魚類養殖シンポジウム」を県水産試験場において開催しました。

・宮原正典水産庁次長による「クロマグロを巡る情勢と管理強化の対応」と題した講演や、水産試験場からの研究成果が発表され、場内の見学も行われました。



●文化の秋・芸術の秋 真っ盛り！！

・秋本番を迎えた11月、和歌山県内では文化の秋・芸術の秋に、ふさわしいイベントが開催されました。

田 辺 弁 慶 映 画 祭

・11月2日～4日、田辺市の紀南文化会館を会場に「田辺・弁慶映画祭」が開催されました。

・この映画祭は映画の魅力の再発見や映画を通しての交流促進、次世代監督の作品の上映機会の創出など、映画文化の多様な活性化を目的に、平成19年から開催されています。

・新人監督作品によるコンペティションが映画祭のメインとなっていて、過去の受賞者の中から、商業映画デビューを果たした監督もあり、新人監督の登竜門として、確実に定着しつつあります。

・今年は、過去最高の90作品の応募があり、この中から、1次審査を通過した6作品が上映され、審査の結果、今橋貴監督の「虚しいだけ」が見事、最優秀作品賞（グランプリ）に選ばれました。

・4日に行われた表彰式には、仁坂知事も駆けつけ、「映画祭は今年で6回目。継続して開催される事は非常に喜ばしい事。年々映画祭への注目度が上がる中、選考の大変さが伺える」と挨拶しました。

・映画祭では、コンペティション作品のほか、平成21年から企画提携している東京国際映画祭の作品や招待作品など、3日間で、計14作品が上映され、大勢の人が来場しました。



世 界 民 族 祭 i n 真 国

・11月10日～11日、紀美野町のりら高等芸術専修学校を会場に、「世界民族祭 in 真国」が開催されました。

・このお祭りは、世界各地の伝統芸能・食などに触れる文化交流の場をつくり、さまざまな人が集い繋がることで地域に活気を生み出そうと、紀美野町真国地区の方々や専修学校の生徒達为中心となり始められたもので、今年で4回目となります。

・10日は、この地域に伝わる真国御田の舞をはじめ、古来からの伝統芸能を奉納する伝統芸能祭で幕が開け、夕刻からは前夜祭「音楽と舞踊の夕べ」して和太鼓、合唱、吹奏楽、創作舞踊など様々な舞台が繰り広げられました。

・11日は、いよいよ本番の「世界民族祭」。世界約20の国と地域から参加者があり、韓国、中国、ロシア、インドなどの各国の民族舞踊や伝統音楽が舞台上で次々と披露されました。また、会場内には、食や文化を紹介するブースも設けられ、町内外からの大勢の来場者で賑わいました。

・真国地区は、県が進める「わかやま版過疎集落総合支援対策」で、芸術を主役とした住民主役の集落づくりを進めており、この民族祭もその取組の一環として、さらなる発展が期待されています。



●ようこそ、秋深まる和歌山へ。

・観光シーズンでもある11月は、民間団体主催による、様々な大会も開かれ、県外から多くの方々が訪れ、秋の和歌山を楽しめました。

全国友好葵ライオンズクラブ和歌山大会

・11月3日和歌山市において、全国友好葵ライオンズクラブ和歌山大会が開催されました。

・全国友好葵ライオンズクラブは、昭和44年に静岡葵、京都葵、和歌山葵、水戸葵、名古屋葵の、徳川家ゆかりの地に結成され葵の名がつく5つのクラブにより創立されたもので、今では、全国14のクラブからなり、毎年、持ち回りで大会を開催し、交流を深めているそうです。

・和歌山大会には約300人が参加。仁坂知事も来賓として出席し、ライオンズクラブの方々が様々な奉仕活動に取り組んでいることに感謝しながら、「この機会に和歌山の多様な魅力に触れて下さい」と挨拶し、全国からの参加者を歓迎しました。

・大会翌日には、参加者は高野山を訪れ、下界より、一足早く色づいた紅葉を楽しみながら、世界遺産の地を巡りました。

三山経済同友会

・11月7日～8日、三山経済同友会の交流会が開催されました。

・この三山経済同友会とは、県名に「山」が付く和歌山、岡山、富山の3つの経済同友会が交流を深め、情報交換することにより、互いの経済活性化を図ろうと2年前から始まったもので、和歌山での開催は今回が初めてとなるそうです。

・初日は、和歌山市の株式会社島精機製作所を訪れ、工場を視察。その後、日高町に場所を移して、クエ鍋を囲んで懇親会が開催されました。

・この会には仁坂知事も駆けつけ、「それぞれの地域で頑張っておられる経済同友会の皆さんが、こうして交流を深められるのは素晴らしいこと。」と参加者を歓迎し、「和歌山には、クエをはじめ美味しいものがたくさんありますので、ぜひご堪能下さい。」と挨拶しました。

・一行は翌日、紀の川市の「青州の里」や高野山を訪れ、和歌山の多彩な歴史の一面に触れながら、秋の一日を楽しみました。



～貴志川線に乗って西国三社参り～

・初詣に三つの神社に参拝する「三社参り」は、西日本では、よく知られた風習です。
 ・かつて、和歌山では、日前宮、竈山神社、伊太祁曾神社の三社に詣でる人が多く、現在の和歌山電鉄貴志川線は、この三社に参る人を運ぶために、敷設されたとも言われています。

日前宮（日前宮駅より徒歩1分）

・同一境内に二つの社殿が並んで建てられて、西側が日前大神を祀る日前（ひのくま）神宮、東側が國懸大神を祀る國懸（くにかかす）神宮で、両社をあわせて日前宮と呼ばれ親しまれています。
 ・日本でも有数の歴史と格式を誇る神社とされ。毎年、初詣には、約30万人もの参拝者があり、その数は県内トップクラスです。



日前神社



國懸神社

竈山神社（竈山駅より徒歩10分）

・神武天皇の長兄にあたる彦五瀬命（ひこいつせのみこと）を祀ります
 ・彦五瀬命は、大和平定の途中で戦傷し、竈山の地に葬られたとされており、『紀伊続風土記』によれば、その場所がこの竈山の地であり、墓が作られてすぐ側に神社が作られたとされています。
 ・神社の裏手には、彦五瀬命の墓とされる陵墓があります。



伊太祁曾神社（伊太祈曾駅より徒歩5分）

・五十猛命（いたけるのみこと）、大屋津姫命（おおやひめのみこと）、都麻津姫命（つまつひめのみこと）の神々を祀ります。
 ・五十猛命は、日本に木種を播き施し緑豊かな国に造り上げたこと『日本書紀』に記されていることから、「木の神様」として信仰を集めてきました。
 ・また『古事記』には五十猛命が大国主神の命を救った神話が記されており、「いのち神」「厄除け・病気平癒の神」としての信仰も古くからあります、



・今年、貴志川線では、新たに「ニタマ」が伊太祈曾駅の駅長に就任しました。正月三が日も休まず勤務に就き、参拝者を出迎えてくれるそうです。皆さんもぜひ、貴志川線を利用して、初詣にお出かけ下さい。
 和歌山電鉄ホームページ：<http://www.wakayama-dentetsu.co.jp/>

～編集後記～

秋が深まる11月は、文化の日や勤労感謝の日の祝日もあり、様々な行事やイベントが多い時期でもあります。それを反映して、今月号は盛りだくさんの内容となりました。

ご紹介した行事は、県が主催しているものばかりではありません。田辺弁慶映画祭は、田辺市と市民の皆さんが一緒になって作り上げているものですし、世界民族祭は高等専修学校と地域の皆さんが過疎地に活気を生み出そうと始められたものです。

イベントを始めるのも大変ですが、それを続けることはもっと大変と思われる中で、どちらのイベントも回を重ねるごとに、参加者も増えているようで、本当に素晴らしいことです。今後も地域の皆さんの熱意と努力で、益々素晴らしいイベントになることを願っています。

このような各地での取組が着実に花開き、「元気な和歌山」に繋がっていくと言えます。和歌山だよりでは、これからも、このような地域の行事や取組にもスポットをあて、皆さまにお伝えしてきたいと思っています。

さて、4月号から私が担当してから、あっという間に12月号となり、早いもので、平成24年も残すところ、一月足らずとなりました。

10月号でご協力をお願いしました「ふるさと納税」ですが、今月末までにご寄付いただければ、来年の確定申告により、平成24年分の所得税及び平成25年度の住民税について控除を受けることができます。何かと慌ただし日々を送られていることと思いますが、ぜひ、ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

この冬は、これまでの暖冬とは一変して、西日本などでは「寒い冬」になるということですので、皆さま、体調管理にはどうぞ、万全を期して、佳いお年をお迎え下さい。

今年も和歌山だよりをご愛読いただきありがとうございました。

来年も、どうぞ、よろしく願いいたします。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2012年(平成24年)12月 NO.56

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022